

第2回ステップアップ市民会議 意見・提言の整理

別紙

区分	項目	意見・提言 ※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
議会運営に関すること	一般質問	<全体> ・1回目の説明で満足してしまい2回目、3回目の議論がなく、形式的 ・質問も答弁も表皮的、事務的でおもしろくないので聞きたくない。 ・本会議は始めから事ありきで発展性が感じられない。 <一般質問の内容> ・市民中心の生活を守る質問とはほど遠い。“現場第一主義”精神を望む。 ・視察で見たことを要望しているが、すでに松本にもあるとか。視察は止めて創意工夫をした提案を望む。 ・質問のテーマを一つに絞り、深く掘り下げ、研究された質問を。 ・議員の質問は頭で考えて適当にやっている人が目立つ。 ・本当に市民の声を聞いて質問していない。 ・新聞等で分かりきったことを質問している人が多い。 ・具体的に質問してほしい。 ・季節のあいさつは不要 ・市民に直接関係のあることを取り上げ、解決できる問題を。国、県会の課題は除く <調査・検証> ・質問内容の事前勉強と、答弁に対する後確認をしているのか。 <答弁方法> ・答弁は自席に移動マイクを置いてやれば時間短縮できる。 <傍聴者の期待に応える一般質問> ・会派でなく専門家チームとして、答弁を打ち消すような質問ができるような勉強が必要。 ・「傍聴者が来たくなるような議会」を検討する対策プロジェクトを作って改革してほしい。 ・「1時間勝負」の濃度の濃い質問の実行の義務化。全議員、年1回「1時間質問」を必ずする。(年間30時間を特別に設定する。)		一般質問の方法を傍聴者に分かりやすく、内容を濃いものにする。 ・一問一答方式 ・発言場所 ・開催日時 ・発言通告内容 ↓ 政策部会で検討

区分	項目	意見・提言 ※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
議会運営に関すること		<一般質問への市民参画> ・議会開催に先立ち、会派は「(仮称)市長への質問をつくる市民会議」を開催する。市民に予定の質問内容の説明をして意見、感想を聞く。会派として用意していない質問要求を取りまとめ、質問を完成させる。傍聴者増の効果が極めて大きい。		
	本会議の委員長報告	・委員長報告は文書配布として、その後議決するのが良い。登壇しての委員長報告は必要ない。		委員長報告の意義、会議規則等を説明
	傍聴資料	・本会議・委員会の席表が欲しい。 ・傍聴資料の個人情報の部分は黒塗りでよい。 ・委員会でどの資料について話しているのかわからないときがある。「〇〇の資料をご覧ください。」と説明を入れてほしい。 ・傍聴資料は会議時のみの貸与ではなく、持ち帰りできるようにしてほしい。 (議論の評価ができない。個人情報等は省いてよい)		・席表の配布 ・傍聴資料の貸し出し(持ち帰り) ・傍聴資料の個人情報 ↓ 政策部会で検討
	会議の運営	・委員会が時間通りに始まらない。開始が遅れると出席している職員の人件費、光熱費ほか、税金の無駄遣いになる。 ・「調査・研究」を目的とした特別委員会は、具体的成果目標をもった活動にしてもらいたい。 ・常任委員会の1日2委員会開催は、4委員会をわけて傍聴しやすくしたとあるが、なぜ2委員会の開催時間を同じにしたのか。 ・開会のときの定例あいさつをなくして時間短縮を。 ・「聞き置く」とした委員長の集約に驚いた。 ・市民共通の重要テーマについて、特定地区での出前委員会を随時開催してほしい。 ・委員会の傍聴だけでなく、会議終了後に、傍聴者と議員が意見交換できる仕組みを作してほしい。		3分前放送を実施 ・特別委員会の成果 →特別委員会で対応 ・1日1委員会 ・委員会の集約表現 ・出前委員会 ・委員と傍聴者の意見交換 ↓ 政策部会で検討
	審議内容等	・決算特別委員会や常任委員会などの会議で危機意識が感じられない。 ・補正予算審議は徹底的に精査を。議案修正ぐらいはしてほしい。 <決算特別委員会> ・審査はもっと突っ込んで精査する必要があるのに、質問もしないでほどほどでやめてしまう。精査能力、評価能力に問題がある。		

区分	項目	意見・提言 ※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
議会活動に関すること	(議会報告会)	・会派ごとの報告会もやってほしい。少なくとも年1回年度当初に昨年度の議会活動実績と成果、反省、新年度活動方針、目標について報告を。 ・議会報告会は質疑応答できる会議に。		
	市民意見の把握・反映	・格差社会が広がり、希望や夢の持てない時代になっている。市民の声に対し、議員の意見を聞く具体策を伺いたい。 ・議会で可決された予算の執行時に問題があることが市民によって発見されたとき、議会として検討検証など対応してくれる窓口はどこの誰か。 ・3Kプランや地域主権の推進するにあたって不安となる町会組織等の現状に対し、議員から疑問の声が出ないのがどうか。身近な市民の声が反映されていないのではないか。 ・市民との常設の「意見交換の場」をつくる。毎週1回、議会代表の複数の議員と市民との意見交換会の場をつくる。(当番医制度型) ・議員報告会ではなく、委員会担当行政について市民の声を聞く会を年1、2回議員に義務付け、その会での意見等に基づいて、委員会や本会議で要請、質問を行うこととしたらどうか。逆に、聞く会を開催しない議員の質問権はなくす。 ・立案及び提言を市民が督促したいときは議会の誰に申し出ればいいのか。市民が政策提案してもらいたいことが出てきたら議会の誰に言えばいいのか。市民提案対応受付窓口を作ってほしい。		交流部会で検討
	基本条例の具現化・議会の権能強化	・来期は、4部会の活動範囲に制約されず、重要課題優先解決という視点で、解決すべき課題を先に決め、プロジェクト的に議員を配分して活動してほしい。 (優先課題案) ・「政策立案、提言」 なぜしないのか、その原因の徹底究明と根本対策 ・「監視・評価」 機能が発揮されていない。表皮的、形式的で実効性に乏しい。まずすべきことを決めて、次に充実した実効性のある監視・評価機能が発揮されるための対策案を作してほしい。 ・「議会事務局の体制整備」 議会活動強化のための体制整備計画を早急にたて、実現化を。 ・「政治倫理」 議会全体のコンプライアンスとして、政治倫理に違反するような行為に対する処置、対応のルール作りを。倫理条例の制定を待つとしても、放置状態は避けるべき		・政策提言のしくみづくり ・議会の機能強化 ・政治倫理条例 ↓ 政策部会で検討

区分	項目	意見・提言 ※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
会派・政務調査費に関する事	会派のあり方	・会派の意味、形成の目的を明確にしてほしい。何のために会派をつくるのか。 ・会派活動と個人の公約との整合性は。公約実現の責任は個人にあるのか、会派にあるのか。 ・各会派の人数により委員会の委員が割り振られているが、各委員会で協議したことは各会派で共有する仕組みになっているのか？現在、各会派4人以上であり情報共有できる状況だと思われる。しかし、規定上3人以上で会派が成立し、かつ議員定数の減少により、今後の選挙で3人会派が出てくることが考えられるが、会派が参加していない委員会の情報をどのように共有されるべきと考えるか？		会派でそれぞれの考え方をまとめ、会派ごとの意見を公表
	政務調査費	・政務調査費の残額ゼロの会派と残額返済の会派の不公平差を認めない。残額ゼロ会派の収支報告は不可解。 ・旅費の比率が高すぎる。会派によっては、96.6%のところもある。 ・政務調査費の大半をしめる旅費の報告内容について、旅費を使って出かける目的とその成果を報告してほしい。 ・議員一人当たり、25万円の政務調査費の根拠は何か。 ・市長から交付を受け、残額を市長に返還するというのは、表現としてどうなのか。二代表制としての関係からも気になるところである。		会派でそれぞれ検討し、会派ごとの意見を公表 議会事務局で現状の仕組みの説明を作成し、公表
議員活動に関する事	議員報酬	・市職員は人事院勧告により給与が減額になる。議員もその趣旨を深く認識し、報酬減額の率先垂範を期待する。	以下、議員資質向上等を求める意見等	
	議員の役割と責務	・市職員の仕事ぶりと問題点について、チェックするのも議員の役目である。 ・国と同じように公務員改革や行財政改革を実行するという意識が足りない。 ・地方税滞納問題に関し、税金の使い方に整合性のない行政側に対して、これを追及しない市議の方たちは問題点の本質がわかっているのか？ ・まつもと市民芸術館の運営（高い人件費、補助金）については、議会主導で仕分けすべき ・委員会の使命は行政のチェックだが、それがなされていない。		
	議員の資質・態度	・議論の内容とずれている論点で委員長と論争することは時間の無駄である。 ・本会議、委員会で椅子にふんぞり返ったり、腕組みをしている。相手を見下している。 ・一つ一つの会議に真剣に本気で取り組んでもらいたい。 ・議員の横柄さが非常に滑稽に感じる。		

区分	項目	意見・提言 ※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
議員活動に関すること	(議員の資質・態度)	・今日（第2回ステップアップ市民会議）の冒頭の議員の皆さんの発言の仕方や態度は、上から目線で見ていると感じた。 ・なぜ議員を先生と呼ばなければいけないのか。しかも議員同士が先生と呼び合っている。自身を恥ずかしいと思ってほしい。 ・政策部会で、議員定数削減後の委員会の人数について真剣に議論していた。こんなつまらない事務的なことで高い給料をもらっているのかと思うと本当に笑ってしまう。そんなレベルで納得されているのか。		(以下、議員資質向上等を求める意見等)
	全般的感想・意見	・一生懸命やっているという印象はあるが、まだまだ我々のための市政になっていない。 ・覇気がない。挑戦的気風に乏しい。 ・「仲良しクラブ」的で内向的、村的集団。 ・結果（成果）よりプロセス重視、形式主義、前例主義的集団。 ・「役人」依存体質（役人主導体質享受）になっている。 ・時間感覚、スピード感覚に欠けている。 ・市民感覚とは段差がある集団だ。（議員、議会の常識は一般市民の常識とは違うのではないかな。） ・勉強不足が目立つ。 ・危機意識が薄い。 ・二元代表制についての議員の認識と実態はどうか。なぜ発揮されてないのか。どうすれば発揮できるか。 ・議員が市民の中に入っていないので、選挙への関心が薄い。投票率が悪いのは議員の責任。 ・先回行われた県知事選の投票率、半数の方々が棄権したが、どんな感想をお持ちか。 県市町村の選挙管理委員会・県市町村議会も加わり、この低投票率の原因を拾い出し、今後の投票率向上に尽力願いたい。（例：投票用紙を郵送する。各企業その他に協力願ひ、通常日を投票日とする。期日前投票日の拡大、投票の義務化） ・議員にはそれなりの権力が伴っているが、さらに委員長や議長にはなるとその権力が大きくなってくる。議員の「権力」と「利権」は表裏一体で、議員がいきり立つ時は、この「権力と利権⇒権益」が侵されそうになるときではないか。		

区 分	項 目	意 見 ・ 提 言	※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
議員活動に関すること	(全般的感想・意見)	・「議会軽視」という言葉もよく聞くが、住民主権が進めば、市民と議会との関係において「議会軽視」というものは言えなくなっているのではないかな。 ・議員よりも市長の方が権力が強い。戦後、市議会議員から市長になった人はない。市議会議員の中から、より権力のある市長に立候補する人が出てきてもよい。 ・議員は「休まず、遅れず、何もせず」であっても通用している。議会として決めたことに対して何の責任も負わない。最近の事例としては梓川ファインフーズの問題もあったが、議員に責任が及ぶことはないのではないかな。 ・保守化・硬直化しやすい行政について、真摯に提言等を入れながら、行政を弾力的なものにしていく、ということが議会に求められているが、行政追随の議会になっていて機能していないことに市民からのストレスが非常に高まっているのが現状である。 ・市民は安心して安全に暮らせるまちづくりを望んでいる。その行政運営の最終決定機関が議会。先ほどから市民の声を聞いてないと出ているが、聞きたくても聞けない。この委員公募も 20 名くらいしか応募がない。そんな市民の声を聞けるわけがない。議員が公民館で意見を聞きたいとやってもせいぜい出てくるのは町会長、公民館長くらいである。 ・障害者の方がほとんど歩いていないこの街が安心して安全に暮らせる街とは思えない。人間の本質に帰った議会運営をこれから望んでいきたい。 ・議員は老人、障害者等の福祉施設の姿をどこまで知っているかな。 ・市街地が呼吸していない。蘇生させる為の対策が必要。町会間の横のつながりに欠ける。・地方交付税や国庫支出金は破綻しそうな国家財政からの援助であり、しかもその金は我々の税金から支出している。税金の無駄遣いをなくすことを市議会で徹底議論してほしい。 <総務委員会> 滞納整理機構について、この制度への参画の必要性の確認。請願者の提示する問題点の調査、確認、既に導入している県の実態調査をしてみるなど、慎重に検討してほしい。 <経済環境委員会> 「ごみ有料化」「松本空港活性化」状況説明会でただ聞き及ぶ。議員の発言がない。危機意識、問題意識が希薄。		(以下、議員資質向上等を求める意見等)	

区分	項目	意見・提言 ※具体的な提言等はゴシックで表記	検討予定期間	今後の対応案
議員活動に関する事 こと	(全般的感想・意見)	<産業振興・行財政改革特別委員会> テーマの勉強をしているうちに議会は選挙になる、目的のない成果のない会議。観光についての問題意識、危機感がない。勉強不足、議論が深まらず、何も生まれない。 <政策部会> 内容希薄、だらだら締まりのない会議。会議の進行に問題あり。政策提言・立案の強化を担当する重要な部会。熱気、気迫が感じられない。	(以下、議員資質向上等を求める意見等)	
ステップアップ市民会議に関する事 こと	ステップアップ市民会議に関して	・傍聴のステップアップ市民委員の私語が非常に多くて恥ずかしかった。議員の皆さんや議会事務局から指導してもらって結構だと思う。会議のルールを守っていくということは、私たちから姿勢を正さないと議員に何か言える立場ではないと思う。 ・議会基本条例第2条第2項にあるように議会は政策立案し、提案するということを基本とする。精査、監査を徹底的にどうしたらやれるかというのをこの市民会議で提案していきたい。 ・市民目線からみた議会改革、強化をまとめて議会へ提示したい。ステップアップ市民会議の活動目標とすることを提案する。議会基本条例に載っている事項を中心に具体的改革、強化対策案を市民会議として議会に答申する。議会が考えている議会改革、強化についてのプロセス、着地点は市民とはかなりの差があると思う。市民との差を知るいい機会と思ってほしい。 ・ステップアップ市民会議委員は、市長に言わなければいけないことまで言っている。議会の果たす役割を勘違いしている。勉強会を開いた方がいい。 ・ステップアップ市民会議委員は議会基本条例を勉強してはどうか。		

区分	項目	意見・提言
行政執行に関すること	一般質問の答弁	・市側の答弁は抽象的で結果が得られず、問題提起状態で終了してしまう。 ・攻防がなく形式的に終わってしまう。
	委員会の出席者	・委員会への行政側職員 30 名の出席は無駄である。2、3 人では駄目なのか。
	政策について	【四賀地域オンデマンド交通について】 マイクロバス購入については、実証実験が終わってからするべきではないか。『<u>過疎値</u>を使つての購入だから<u>有利</u>に買えると』という議論はどうか。その論法で、公共事業を次々として、立ち行かなくなったのが夕張市である。実証運行のはずなのに期限の明示もなければ、見直し規定、終了規定がない。 【四賀むらづくり(株)について】 財務諸表を提出せず現状報告する市職員の仕事への取組みはいかなるのか。仕事に対し真摯な姿勢が無いとしか言えない。又議員のことも馬鹿にしているのか。財務諸表がなくてどうして経営分析ができるのか。筆頭株主としてなどと言っていたが、民間の資本（約 70%）のほうで圧倒的に多いのに、筆頭株主云々というのは、あたらない。民間側が組めばどんな提案も否決される。非効率、生産性がない典型の公務員が民間企業の経営指導ができるとは到底思えない。お上意識なのか。この議案を説明した職員は当該法人に転籍させて管理させればよい。純粋に民間資本がやる気になれば、まだまだ、経営再建はできるのではないか。一刻も早く清算して経営からは手を引くべき。何回も言うが指導するといった職員は経営者に入ってもらふべき、自分たちが考える再建案が正しい自信があるのなら。 【四賀むらづくり(株)について】 四賀むらづくり(株)の第三セクターがあるが、3年間 1,000 万円以上の赤字経営である。経営改善の意識が感じられない。市側の当事者意識が足りないのと、お客さんを呼ぶ努力をしてきたのか疑問に思う。 【松本空港の活性化】 一般質問でイベントの活性化、イベントを中心とした組織を作ろうという話があった。多いに結構だが、あまりにも単発的すぎて、経常的に利用客を確保するためには、安心して安定した運行が必要ではないかと思う。観光面や企業、会社等で絶対飛行機が必要だというビジネスレベルで方策はないのか、一般利用者がどうしてあまり利用してくれないのかというところを分析して対策を講じてほしい。たびたび多少の雨でも欠航する。有視界飛行のため、天候に左右され、計画が立てづらく、利用率が下がる。長期的な方策を考え、これからの活性化について、協議、方策を講じてほしい。 【松本空港・観光戦略について】 松本空港の活性化や観光戦略についても目標設定や達成プロセスを明確にすべき。

区分	項目	意見・提言
行政執行に関すること		【職員給与の減額・人員減】 平成 21 年度の市税歳入が前年比マイナス 5.3%と大幅な減少に対して、人件費が 0.9%しか減っていない。民間の平均給与がマイナス 5.5%（金額で 23 万円）と大幅に減少している。公務員給与は高すぎるという話を聞く。少なくとも民間給与の減少分は公務員給与に反映させるべき。（参考）国家公務員平均給与＝633 万円、民間平均給与＝405 万円 政府が掲げている公務員給与 20%削減を最終目標に掲げてほしい。 正規職員を 4 年間で 132 人減らしているが、嘱託・臨時職員が 97 人も増加している。人員削減目標が平成 18 年から 4 年間で 112 名の減（6.3%の減）は甘すぎる。民間企業はリーマンショック以降リストラと大幅な給与カットで必死に生き延びてきた。職員が多すぎるという意見を多く聞くが最低 20%削減の目標を掲げるべきと思う。 【ごみの有料収集について】 ごみの有料収集について経済環境委員会で検討しているが、ごみの量の 50%を占めている事業所系ごみを有料にして、市民のごみは現状のまま無料としてほしい。政府の方針で法人税が 5 %削減という方針が出されているのでこれも加味して検討してほしい。 【市民税の減税】 市民税の減税に積極的に取り組んでほしい。市民が一番困っているのは民間企業の収益が上がらず数年間給与が減り続けていることや年金や医療に対する国の施策が十分でないため老後の生活に不安を抱えていること。子どもがいる生活保護世帯や準生活保護世帯がどんどん増えている。効果のない子ども手当では止めて、地方自治として市・県民税や固定資産税の大幅な減税を実施してほしい。少しでも多く世帯収入を増やすことに取り組んでほしい。（参考）小中学生の就学援助対象者＝全国＝149 万人 長野県＝1.9 万人 【税等の滞納者対策】 税金、国保、市営住宅家賃などの未収入金対策を徹底してほしい。税の公平性という観点から滞納者対策に注力してほしい。市税の未収入金累計が 23 億円、国保の不納欠累計 20 億円はあまりにも多い。滞納者の対応はそれぞれの部門が対応しているということだが、横の連携が取れていないように見受けられる。なぜ払えないのかの調査や個人の収入額調査を徹底して行い、更に部門間連携を行うなかで不公平感をなくしてほしい。
	市職員について	・自席の後ろに私物と思われるグローブやスポーツバッグが置いてある。 ・窓口対応をするのに大あくびと背伸びをしながら出てきた。 ・職員でない人間が執務室に入り込んで話をしている。個人情報保護はどうなっているか。